

平成 27 年度 発達障害理解推進拠点事業  
成果報告書（概要版）

実施機関名（ 堺市教育委員会 ）

1. テーマ

発達障害児の認知特性を踏まえた通常の学級における学習環境づくりや授業改善、集団づくり等について、拠点校での実践研究及び成果の発信

2. 問題意識・提案背景

平成 24 年 12 月の文部科学省の調査報告では、小中学校の通常の学級に、発達障害が疑われ特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、6.5%程度在籍すると言われている。本市においても、通常の学級においては、発達障害を起因とする学び方の違いによる学力や自尊感情の低下、人間関係の形成や社会性についての未熟さ等が課題となっている。また発達障害児への正しい理解と適切な支援がないために、いじめ・不登校などの二次障害が生じていることも課題である。

そこで、発達障害児の認知特性を踏まえた、通常の学級における学習環境づくりや授業改善、集団づくり等について、発達障害の専門家による指導助言のもと、拠点校 4 校を発達障害児への特別支援教育モデル校として、実践研究を行い、研究成果を他校へ発信する。

平成 25 年度は、2 校、平成 26 年度は、さらに 2 校の新規モデル校（拠点校）を指定し（計 4 校）、取り組んだ。平成 27 年度は、継続して取り組み、本市の特別支援教育の推進を図ってきている。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
堺市	英 <sup>えい</sup> 彰 <sup>しょう</sup> 小学校
堺市	津 <sup>つ</sup> 久 <sup>く</sup> 野 <sup>の</sup> 小学校
堺市	美 <sup>み</sup> 原 <sup>はら</sup> 北 <sup>きた</sup> 小学校
堺市	長 <sup>なが</sup> 尾 <sup>お</sup> 中学校

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
堺市	幼稚園 10 園
堺市	小学校 93 校
堺市	中学校 43 校
堺市	高等学校 1 校

#### 4. 拠点校における取組概要

拠点校において、年間を通して、以下のことを計画的に実施した。

##### ○発達障害や授業のユニバーサルデザイン化の専門家の活用

小田浩伸（大阪大谷大学 教授）

長尾中 10回 津久野小 5回

伊藤孝（花園大学 教授）

津久野小 5回

米田和子（NPO法人ラヴィータ研究所 所長）

美原北小 10回 英彰小 8回

##### ○研修

発達障害や授業のユニバーサルデザイン化の専門家から指導助言を受け、拠点校の教職員が発達障害についての理解を深めるため、研修等を実施した。

##### ○授業コンサルテーション

発達障害児の認知特性を理解した上での学習環境づくりや授業改善、集団づくりに組織的に取り組むため、発達障害の専門家による授業コンサルテーションや指導助言等を実施した。コンサルテーションを受けた教員は自身の授業を振り返り、全体へ共有し、実践研究を重ねた。

##### ○「〇〇学校スタンダード」や「取組〇項目」等の作成と活用

教員が同じ視点で取り組むことができるように、「〇〇学校スタンダード」や「取組〇項目」等を作成し、活用した。

##### ○支援スタッフの配置

各拠点校に、支援体制の充実のため、専門家の助言をもとに教員との連携のもと、発達障害のある児童生徒の実態把握を行い、児童生徒の学習支援や教材作成の補助等を行う支援スタッフ（有償ボランティア）を配置した。

##### ○理解推進地域に向けての発信

拠点校における実践や研究の成果を全市に発信するため、実践報告会・公開授業等を行った。

#### 5. 主な成果

- ・それぞれの学校で「〇〇学校スタンダード」や「取組〇項目」等を作成することで教員が同じ視点を持ち、学校全体での研修や校内委員会の在り方を見直し、組織的に取り組めるようになった。
- ・学校独自のアセスメント等で児童・生徒の実態を把握し、全体研修の場や校内委員会で、発達障害児の特性や児童の実態について共有し、共通の視点で生徒指導対応、集団づくりや授業改善に取り組むことができた。
- ・拠点校の実践報告・公開授業では、堺市のみならず、他府県他市町村からも多くの教員が参加し、「実践を受けて本校でも取り組んでいる。」等の感想が多く寄せられていたことから、拠点校の実践が、理解推進地域に広ま

った。

- <美原北小学校> 平成 27 年 6 月 12 日 (金) 約 100 名  
公開授業 (4 クラス)・実践報告・講演
- <長尾中学校> 平成 27 年 10 月 26 日 (月) 約 130 名  
公開授業 (全クラス)・実践報告・講演
- <英彰小学校> 平成 28 年 1 月 29 日 (金) 約 80 名参加  
公開授業 (7 クラス)・実践報告・講演
- <津久野小学校> 平成 28 年 2 月 2 日 (火) 約 100 名参加  
公開授業 (3 クラス)・討議会・実践報告・講演
- <美原北小学校> 平成 28 年 2 月 5 日 (金) 約 100 名  
公開授業 (13 クラス)・実践報告・講演

- ・教員の取組について (2 月実施学校長ヒアリングより)  
拠点校の取組を参考に、堺市の全ての学校で、校内において、「発達障害」や「授業のユニバーサルデザイン化」に関する研修を実施した。
- ・拠点校の学力について (堺市学力等実態調査「堺市子どもがのびる『学びの診断』」の分析結果 (小 4・5・6、中 2・3 の経年比較) より)

**【拠点校の国語】**

(小 3 学年×3 学校 中 2 学年×1 学校 計 11 学年)

同一集団においての比較では、6 学年が約 1~5 ポイント上昇している、5 学年が 1~5 ポイント減少している。

**【拠点校の算数・数学】**

(小 3 学年×3 学校 中 2 学年×1 学校 計 11 学年)

同一集団においての比較では、5 学年が約 1~6 ポイント上昇している、6 学年が 1~5 ポイント減少している。同一集団においての比較では、横ばい~約 6 ポイント上昇している。

**【拠点校の英語】 (中 2 学年×1 学校)**

同一集団においての比較では、横ばいである。

## 6. 今後の課題と対応

○課題

- ・拠点校の取組等を通して、全市的に「授業のユニバーサルデザイン化」の取組が進んだ。
- ・今後は、確かな学力の向上に向け、教材研究の充実が課題である。
- ・「授業のユニバーサルデザイン化」のみでは対応できない児童に対して、合理的配慮に基づく支援の充実も課題である。

○今後の対応

- ・堺市全体の教員の専門性の向上に向けて、各学校の授業公開や学校のホームページ・堺市教員専用WEB ページ等を通して定期的に発信していく。

## 7. 問い合わせ先

組織名：

- |             |                           |
|-------------|---------------------------|
| (1) 担当部署    | 堺市教育委員会学校教育部教務課特別支援教育グループ |
| (2) 所在地     | 堺市堺区南瓦町 3-1               |
| (3) 電話番号    | 072 - 228 - 7436          |
| (4) FAX 番号  | 072 - 228 - 7421          |
| (5) メールアドレス | gakukyo@city.sakai.jp     |